

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472600436		
法人名	(株)東北医療福祉システムズ		
事業所名	グループホームやすらぎ苑利府	ユニット名すみれ	
所在地	宮城県宮城郡利府町沢乙字寺下10-1		
自己評価作成日	平成 24 年 7 月 26 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>看取りに際して、職員が心をこめてケアにあたります。医療との連携・家族との連携をとりながら、人生最後のステージを生活の場の中で支えていきます。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設して7年目に入った。外部の意見を真摯に受け止め、運営推進委員会議で取り上げ、民生委員の協力で地域に呼びかけ、16名のボランティア登録、家族からは草刈の申し出があった。職員はホーム内の環境整備、ケアに向かう姿勢が改善し、職員の意識改革にもつながった。今年6名の入居者を住み慣れたこのホームで最期まで献身的にお世話をし看取った。又、職員の入れ替わりもある中で理念、業務の振り返りの必要性も感じている。職員の育成、新入居者の状況把握と抱え込む課題は多いが「振り返り18か条」を職員間で共有し現状を踏まえつつ、入居者のケアを最優先に業務改善に向け努力したいとしており期待したい。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成24年8月9日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム やすらぎ苑利府)「ユニット名 すみれ 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今日いろいろな方が訪れている中、地域に根ざした事業者理念の再構築を考え作っていかうとしているところです。	理念の振り返りの必要性は理解しているが、入居者、職員の入れ替りがあり、現状に合わせて「振り返り18か条」を目に付く所に掲示し、それを職員間で共有し入居者のケアを優先に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が散歩や買い物などで地域に出掛けていくことで、地域の方がやすらぎ苑の人々と理解し始めている段階である。	民生委員の協力で地域に呼びかけ、16名のボランティアの登録(掃除、手遊び等)があった。定期的に来訪している。外部者の意見が職員の気付きとなり改めることで意識改善にもなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護をしている家族の集まりや入居相談に見えた時など話す機会をいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新入居者のご家族が加わり、貴重な意見をいただけるようになった。推進会議に参加していただく方々が増えたのを機にさらにサービス向上に活かしていきたい。	集中豪雨で1回中止し5回、入居者、家族、民生委員、地域住民、包括等の参加で開催した。外部から上がった意見を取り入れた会議であり、業務に活かしサービスに反映した取り組みをしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町内の方々が苑の利用者になるので、ご家族で困ることがあると、包括に相談したり、又、運営推進会議の進め方に助言をいただいたりと協力関係を築き取り組んでいる。	本社の対応が多く、管理者はその橋渡しをしている。年3回の介護保険運営協議委員会に管理者が参加している。又、認知症について困難事例の相談、経験談を話す機会もあり協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の「外に出たい」「歩きたい」の思いに沿って、その時々で対応し又車椅子から立ち上がる時は制止せず、見守るなど、身体拘束をしないケアを実践している。玄関の施錠はしないが、入居者が施錠するのを止めることはせず、生活慣習を尊重している。	入居者の状態を把握し、拘束はなく入居者の思いに沿った対応をしている。玄関の施錠はないが、侵入者や安全の為にチャイムが作動している。居室と敷地に段差があり、家族に説明し、夜間帯のみ鍵をかけ安全面に配慮し支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とはどういうことか、虐待の背景にはどんなことが隠されているかなども含め、職員で学びながら実践しているところである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会をまだ設けていないが、学びながら活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約を行ない十分に説明をし、疑問などにも答えているが、その時にかぎらず、不安や疑問などはいつでも受けることを伝え、理解納得していただくよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苑内の要望は家族会・運営推進会議・アンケート箱・職員の聞き取りから意見をいただき、外部では民生委員にお願いして意見を表せるようにしている。	家族の意見を受け止め、職員に伝え、改善しようと努力をしているが体制が整わず配慮の足りなさを感じている。意見、要望を受け止めて優先順位を見極め、サービスに反映させていきたい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議・全体カンファなどで機会を設け、又、気軽に管理者に話せる様なことは直接受けたりして、運営に反映させている。具体的には休憩時間をきちんと取る・夜勤の給料改定が反映された。	駐車場の課題、夜勤手当、休憩時間(45分)の完全確保が改善し反映された。新人職員が多くケアに関するすべてが研修であり、職員の状況を鑑みながら指導しケアに取り組もうと努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩時間の確保・夜勤時の給料の見直しなど整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内勉強会・外部での研修紹介・実践者研修など機会を設け、少しずつ進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県認知症GH協議会内でのブロック会議の参加や実践報告委員会協力など、質の向上に向けて取り組んでいるところである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に会うことで、入居時の不安を和らげ、周りに馴染めるようになるまで、職員が多めにそばにいる機会を設けている。又、一緒に楽しめる機会を作り他の入居者との橋渡ししながら、馴染んでいける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の時点で、よく話を聞き、要望をきくことは出来ないことについては、丁寧に話し、理解・納得していただきながら、良好な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	よく話を聴き、さらに、本人が自力でどこまで出来どこから介助が必要なのかを本人の状態をみながら見極めていく努力に努めている。」		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事仕事など一方的に指示するのではなく、一緒に行い、達成感などを共有したり、一緒に外出して楽しんだり、する関係を築いている。又、例えば嫁と姑との経験から教わることもあり、共に相互の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関わりをつなげるように、その橋渡しの立場で本人を支える関係を築いている。例えば、職員と家族と本人で、本人の住んでいた家を訪れ昔話を聴きながら一緒にひと時を過ごしていただくなど。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人など面会があれば、職員も邪魔しない程度に関わり、スムーズに楽しい時を過ごすことが出来るよう支援したり、どうしても家に帰りたい時にはお連れして馴染みの場所で過ごして戻られるよう支援に努めている。」	家族、知り合いの面会の頻度も高く、買い物に出かけた際やボランティアに知り合いがいたり馴染みの関係性が途切れない。ボランティアは入居者と話す前に職員を通し入居者に配慮し再会している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ドライブなどで、隣りになり、気があうことがわかれば、隣のユニットでもお茶のみや裁縫の趣味など一緒に過ごせる支援をしている。又、同じ手伝いをしてもらいながら、一緒に過ごす時を持ち、支え合えるような場づくりをして支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方のお見舞いに行って、困っていることがあれば、もとの主治医にも相談をつなげたりして支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフの思いだけで行動することがないように、入居者に選択や決定してもらえようような働きかけをしている。東京に帰りたいとの思いが強い入居者の方には仙台まで電車の旅をしてそこで、納得していただくなど、本人本位に柔軟に対応している。	新しい入居者は「思い」をぶつけてくる方が多く、職員は戸惑いもあるがその思いに沿えるよう努力している。居室の前の花壇作りや入居者の状況に応じて昔の職業に近い行動を見て声掛けする等本人の思いに沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の生活を話題にして、本人から聴いたり、家族から聴いたりして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ることは日々の生活に盛り込みながら過ごしていただくが、体調や気分などの現状把握もし、無理のない暮らしをすごしていただくよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットカンファで職員の意見や、ケアの中で聞いた本人の意見を含め話し合いしたり、家族には文書や面会のときに話をしたり聴いたりして、介護計画を作るよう努めている。	家族、本人の情報をもとに作成した計画書は、職員が(やれている事、迷い、わからない事)を記録し、会議で話し合い具体的なサービス内容にし新人職員を含め全員で取り組もうと努めている。看取り時は医師の助言を取り入れ計画書に反映した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録とは別にノートをつくり、気づき・工夫など記入して情報を共有しながら実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	例えば、家族が本人とともに誕生日を祝いたいとの要望。外出すると混乱する可能性があるため、苑内で家族だけで過ごせるスペースをつくり、ゆっくりすごしてもらおうなど柔軟な支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や外食、また、花を買いに花屋を探したり、苗や地元野菜を買いに出かけたり、意欲のわくことをみつけ、楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療で月に2回ドクターやナースと接する中で事業所は勿論、馴染みの関係が出来ている。又、家族が困った時にはドクターと話せるよう機会をつくり、家族が安心できる顔の見える医との関係を支援している。	協力医、訪問診療、看護師との連携もよく家族の安心感に繋がっている。認知症状により家族の付添いの下、専門医に受診している。ショート利用者で状態不安定な方は家族、ケアマネと相談しそれに応じた支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	疑問や困ったことがあれば、電話できいたり、訪問診療時に相談するなど、適切な受診・看護を受けられる支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、ナースや相談員と情報交換をし、退院に向けての相談等支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	人居の際に天まかに、重度化した場合・終末期の在り方について意向を伺っている。体調を崩した時に再度、ドクターを交えて、話し合いをし、方向性を確認しておく。さらに、その時期になった時にドクターを交えて話し合い・説明等をして、方針を共有して支援に取り組んでいる。	今年に入り6名の看取りを行った。医師の指導の下、家族に説明しその都度、意思確認を取った。シャワー浴対応をしたり、リビングでゆったりと馴染んだホームで心静かに過ごされるようケアをしたことで職員は報われたと感想を述べていた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が入れ変わっている時期もあり、すべての職員まで、実践力がともなっているわけではないが、訓練や勉強会など行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年に2回定期的に行い、職員は避難方法を身につけている。地域では防災担当の方々も参加して、具体的な協力体制も話し合われている。	夜間想定を含み年4回実施した。運営推進会議の提案で地域の防災委員も参加した。地域住民の役割や通勤車の駐車に関する反省があった。備蓄、防災設備の定期点検も実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬う姿勢を自問しながら、丁寧に対応している。職員の考え方も様々なので、折りにふれ、誇りやプライバシーについて話し合い、共有して対応実践につなげている。	振り返り18か条(手をかけすぎない、傾聴等)を共有し支援している。土地柄か荒い言葉使いにはお互いに注意している。「～さん」を基本的な呼び方とし、外出時には服装等に配慮し支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分から表出しにくい人へは職員から働きかけたり、行動しぐさから思いをくむよう努め、急がないで、本人が表わせるよう待つ姿勢も持ちつつ働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	場合によってはお風呂タイムをけずって、過ごしたい希望にあわせ支援することもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな色や好みのスタイルを家族に聞いたりして本人が表現できなくても、おしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	稲荷寿司のつめ方やおはぎづくり、カレーライスの野菜の皮むきなど、一緒に準備して楽しみながら過ごす時間づくりをしている。	食事作りは調理専門の職員と入居者ができるところで一緒に関わっている。2～3人が一つのテーブルを囲み職員も一緒に食している。服薬は担当が関り、飲みきりまで確認している。訪問時草刈ボランティア(家族)も一緒にテーブルを囲み和んでいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	地域包括支援センターの栄養士さんにメニュー相談してバランスを考えている。水分量は必ずチェックし、水分を摂るのが苦手な人はゼリーや寒天などで代用し、おいしく摂れるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週1かい口腔ケアを歯科衛生士さんに見てもらおうと自力でケアされている方があり、どちらも本人の力に応じた口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレの排泄をし、排泄時間を記録して、皆で、行くべき時間を共有してケアを行っている。	排泄チェック表を活用し、状況を見てトイレ誘導する事でハビリパンツからパットのみに改善した方もいる。夜間帯は本人本位の支援で安眠を優先している。快便につなげ牛乳寒天等工夫し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の影響を理解し便秘が2日続いたら牛乳寒天を食べていただく工夫をしている。それでも難しい場合、薬の力もあり、便秘解消を支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒否する人のために、入浴時間や、入浴剤の使用などで工夫し、楽しんでもらうよう支援している。	毎日の入浴を可能としているが一日おきに入浴する方が多い。状態によってはシャワー浴対応もある。声掛けの工夫や本人の混乱を避けるため無理することなく時間、日を変える等気分転換となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜勤時の状況を踏まえ、その時の傾眠状態にあわせ、横になっていただいたりしている。夜の安眠のためにも日光欲は大事にしてお茶飲みしながら、一緒に楽しむよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬づくり、服薬チェックを違う職員が行い、薬についての理解を得られるようにしている。また、月に一度薬剤師が定期薬を持参する時に、不必要な薬の相談や薬の効き具合など話し合いドクターにつなげてもらうなど支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの出来ること楽しめることをやってもらいながら、情報を集め、張り合いの持てる日々を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	簡単には行けない遠くの温泉について家族につなげ戸外への外出を楽しめるよう支援している。	人手の問題、入居者の状況により難しい所がある。今年は意を決して仙台七夕祭りを午前、午後に分けて出かけて好評だった。外出を事前に話すことで入居者が不穏になる等難しい。季節に応じた外出等一年を通して支援していただきたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大きさを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	直接お金を持つことがなくても、外出した時に、買い物をして、その時、預かっているお金を渡して、買い物ができるよう支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい時には自らできるように子機を使用したり、職員がかけて話してもらうなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏なので、すだれをかけてみたり、雑誌や新聞を置いて自由にとれるようにしてみたり、その時々で工夫をこらしている。また、西日が強いので、日よけを置いたり、扇風機を置いたりして夏の季節感を出している。	隣り合わせの共有空間は事務所、テラスから自由に行き来できる。それぞれにテーブルとイス、ソファが置かれ寛ろいである。天窓から自然な明かりが差し込み、夏場は均等に冷風が当たるよう扇風機を置く等配慮し季節感のある共有空間作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置、角々に椅子やベンチをおき、居場所づくりの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に家族に聞いて、馴染みのある物を持参していただくようにしている。お茶碗・箸などは普段使っている馴染みの品物を持参していただき、違和感なく食べてもらうよう工夫している。	クローゼット、ベッドはホームの設置である。ベッドは入居者の状態に合わせている。衣装ケース、仏壇、テレビ等を持ち込み思い思いの居室作りとなっている。季節の変わり目には家族が来て衣類の入れ替えをしてくれる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示・部屋のドアには名前をかけてわかる工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472600436		
法人名	(株)東北医療福祉システムズ		
事業所名	グループホームやすらぎ苑利府	ユニット名	あやめ
所在地	宮城県宮城郡利府町沢乙字寺下10-1		
自己評価作成日	平成 24 年 7 月 26 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ゆったり過ごす中で、役割や楽しみを持ちながら自分のペースで過ごすことが出来るよう支援しております。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成24年8月9日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設して7年目に入った。外部の意見を真摯に受け止め、運営推進委員会議で取り上げ、民生委員の協力で地域に呼びかけ、16名のボランティア登録、家族からは草刈の申し出があった。職員はホーム内の環境整備、ケアに向かう姿勢が改善し、職員の意識改革にもつながった。今年6名の入居者を住み慣れたこのホームで最期まで献身的にお世話をし看取った。又、職員の入れ替わりもある中で理念、業務の振り返りの必要性も感じている。職員の育成、新入居者の状況把握と抱え込む課題は多いが「振り返り18か条」を職員間で共有し現状を踏まえつつ、入居者のケアを最優先に業務改善に向け努力したいとしており期待したい。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **グループホーム やすらぎ苑利府**)「ユニット名 **あやめ** 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今日いろいろな方が訪れている中、地域に根ざした事業者理念の再構築を考え作っていかうとしているところです。	理念の振り返りの必要性は理解しているが、入居者、職員の入れ替りがあり、現状に合わせて「振り返り18か条」を目に付く所に掲示し、それを職員間で共有し入居者のケアを優先に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が散歩や買い物などで地域に出掛けていくことで、地域の方がやすらぎ苑の人々と理解し始めている段階である。	民生委員の協力で地域に呼びかけ、16名のボランティアの登録(掃除、手遊び等)があった。定期的に来訪している。外部者の意見が職員の気付きとなり改めることで意識改善にもなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護をしている家族の集まりや入居相談に見えた時など話す機会をいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新入居者のご家族が加わり、貴重な意見をいただけるようになった。推進会議に参加していただく方々が増えたのを機にさらにサービス向上に活かしていきたい。	集中豪雨で1回中止し5回、入居者、家族、民生委員、地域住民、包括等の参加で開催した。外部から上がった意見を取り入れた会議であり、業務に活かしサービスに反映した取り組みをしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町内の方々が苑の利用者になるので、ご家族で困ることがあると、包括に相談したり、又、運営推進会議の進め方に助言をいただいたりと協力関係を築き取り組んでいる。	本社の対応が多く、管理者はその橋渡しをしている。年3回の介護保険運営協議委員会に管理者が参加している。又、認知症について困難事例の相談、経験談を話す機会もあり協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の「外に出たい」「歩きたい」の思いに沿って、その時々で対応し又車椅子から立ち上がる時は制止せず、見守るなど、身体拘束をしないケアを実践している。玄関の施錠はしないが、入居者が施錠するのを止めることはせず、生活慣習を尊重している。	入居者の状態を把握し、拘束はなく入居者の思いに沿った対応をしている。玄関の施錠はないが、侵入者や安全の為にチャイムが作動している。居室と敷地に段差があり、家族に説明し、夜間帯のみ鍵をかけ安全面に配慮し支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とはどういうことか、虐待の背景にはどんなことが隠されているかなども含め、職員で学びながら実践しているところである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会をまだ設けていないが、学びながら活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約を行ない十分に説明をし、疑問などにも答えているが、その時にかぎらず、不安や疑問などはいつでも受けることを伝え、理解納得していただくよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苑内の要望は家族会・運営推進会議・アンケート箱・職員の聞き取りから意見をいただき、外部では民生委員にお願いして意見を表せるようにしている。	家族の意見を受け止め、職員に伝え、改善しようと努力をしているが体制が整わず配慮の足りなさを感じている。意見、要望を受け止めて優先順位を見極め、サービスに反映させていきたい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議・全体カンファなどで機会を設け、又、気軽に管理者に話せる様なことは直接受けたりして、運営に反映させている。具体的には休憩時間をきちんと取る・夜勤の給料改定が反映された。	駐車場の課題、夜勤手当、休憩時間(45分)の完全確保が改善し反映された。新人職員が多くケアに関するすべてが研修であり、職員の状況を鑑みながら指導しケアに取り組もうと努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩時間の確保・夜勤時の給料の見直しなど整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内勉強会・外部での研修紹介・実践者研修など機会を設け、少しずつ進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県認知症GH協議会内でのブロック会議の参加や実践報告委員会協力など、質の向上に向けて取り組んでいるところである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に会うことで、入居時の不安を和らげ、周りに馴染めるようになるまで、職員が多めにそばにいる機会を設けている。又、一緒に楽しめる機会を作り他の入居者との橋渡ししながら、馴染んでいける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の時点で、よく話を聞き、要望をきくことは出来ないことについては、丁寧に話し、理解・納得していただきながら、良好な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	よく話を聴き、さらに、本人が自力でどこまで出来どこから介助が必要なのかを本人の状態をみながら見極めていく努力に努めている。」		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事仕事など一方的に指示するのではなく、一緒に行い、達成感などを共有したり、一緒に外出して楽しんだり、する関係を築いている。又、例えば嫁と姑との経験から教わることもあり、共に相互の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関わりをつなげるように、その橋渡しの立場で本人を支える関係を築いている。例えば、職員と家族と本人で、本人の住んでいた家を訪れ昔話を聴きながら一緒にひと時を過ごしていただくなど。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人など面会があれば、職員も邪魔しない程度に関わり、スムーズに楽しい時を過ごすことが出来るよう支援したり、どうしても家に帰りたい時にはお連れして馴染みの場所で過ごして戻られるよう支援に努めている。	家族、知り合いの面会の頻度も高く、買い物に出かけた際やボランティアに知り合いがいたり馴染みの関係性が途切れない。ボランティアは入居者と話す前に職員を通し入居者に配慮し再会している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ドライブなどで、隣りになり、気があうことがわかれば、隣のユニットでもお茶のみや裁縫の趣味など一緒に過ごせる支援をしている。又、同じ手伝いをしてもらいながら、一緒に過ごす時を持ち、支え合えるような場づくりをして支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方のお見舞いに行き、困っていることがあれば、もとの主治医にも相談をつなげたりして支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフの思いだけで行動することがないように、入居者に選択や決定してもらえるような働きかけをしている。東京に帰りたいとの思いが強い入居者の方には仙台まで電車の旅をしてそこで、納得していただくなど、本人本位に柔軟に対応している。	新しい入居者は「思い」をぶつけてくる方が多く、職員は戸惑いもあるがその思いに沿えるよう努力している。居室の前の花壇作りや入居者の状況に応じて昔の職業に近い行動を見て声掛けする等本人の思いに沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の生活を話題にして、本人から聴いたり、家族から聴いたりして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ることは日々の生活に盛り込みながら過ごしていただくが、体調や気分などの現状把握もし、無理のない暮らしをすごしていただくよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットカンファで職員の意見や、ケアの中で聞いた本人の意見を含め話し合いしたり、家族には文書や面会のときに話をしたり聴いたりして、介護計画を作るよう努めている。	家族、本人の情報をもとに作成した計画書は、職員が(やれている事、迷い、わからない事)を記録し、会議で話し合い具体的なサービス内容にし新人職員を含め全員で取り組もうと努めている。看取り時は医師の助言を取り入れ計画書に反映した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録とは別にノートをつくり、気づき・工夫など記入して情報を共有しながら実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	例えば、本人が花壇を作りたいとの要望があり、職員と買い物に行き、家族に協力をいただき花壇を作り、本人は水やりをしながら楽しむなど柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や外食、また、花を買いに花屋を探したり、苗や地元野菜を買いに出かけたり、意欲のわくことをみつけ、楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療で月に2回ドクターやナースと接する中で事業所は勿論、馴染みの関係が出来ている。又、家族が困った時にはドクターと話せるよう機会をつくり、家族が安心できる顔の見える医との関係を支援している。	協力医、訪問診療、看護師との連携もよく家族の安心感に繋がっている。認知症状により家族の付添いの下、専門医に受診している。ショート利用者で状態不安定な方は家族、ケアマネと相談しそれに応じた支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	疑問や困ったことがあれば、電話できいたり、訪問診療時に相談するなど、適切な受診・看護を受けられる支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ナースや相談員と情報交換をし、退院に向けての相談等支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に大まかに、重度化した場合・終末期の在り方について意向を伺っている。体調を崩した時に再度、ドクターを交えて、話し合いをし、方向性を確認しておく。さらに、その時期になった時にドクターを交えて話し合い・説明等をして、方針を共有して支援に取り組んでいる。	今年に入り6名の看取りを行った。医師の指導の下、家族に説明しその都度、意思確認を取った。シャワー浴対応をしたり、リビングでゆったりと馴染んだホームで心静かに過ごされるようケアをしたことで職員は報われたと感想を述べていた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が入れ変わっている時期もあり、すべての職員まで、実践力がともなっているわけではないが、訓練や勉強会など行っていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年に2回定期的に行い、職員は避難方法を身につけている。地域では防災担当の方々も参加して、具体的な協力体制も話し合われている。	夜間想定を含み年4回実施した。運営推進会議の提案で地域の防災委員も参加した。地域住民の役割や通勤車の駐車に関する反省があった。備蓄、防災設備の定期点検も実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬う姿勢を自問しながら、丁寧に対応している。職員の考え方も様々なので、折りにふれ、誇りやプライバシーについて話し合い、共有して対応実践につなげている。	振り返り18か条(手をかけすぎない、傾聴等)を共有し支援している。土地柄が荒い言葉使いにはお互いに注意している。「～さん」を基本的な呼び方とし、外出時には服装等に配慮し支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分から表出しにくい人へは職員から働きかけたり、行動しぐさから思いをくむよう努め、急がないで、本人が表わせるよう待つ姿勢も持ちつつ働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	場合によってはお風呂タイムをけずって、過ごしたい希望にあわせ支援することもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな色や好みのスタイルを家族に聞いたりして本人が表現できなくても、おしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	稲荷寿司のつめ方やおはぎづくり、カレーライスの野菜の皮むきなど、一緒に準備して楽しみながら過ごす時間づくりをしている。	食事作りは調理専門の職員と入居者ができるところで一緒に関っている。2～3人が一つのテーブルを囲み職員も一緒に食している。服薬は担当が関り、飲みきりまで確認している。訪問時草刈ボランティア(家族)も一緒にテーブルを囲み和んでいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	地域包括支援センターの栄養士さんにメニュー相談してバランスを考えている。水分量は必ずチェックし、水分を摂るのが苦手な人はゼリーや寒天などで代用し、おいしく摂れるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週1かい口腔ケアを歯科衛生士さんに見てもらおう方と自力でケアされている方があり、どちらも本人の力に応じた口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレの排泄をし、排泄時間を記録して、皆で、行くべき時間を共有してケアを行っている。	排泄チェック表を活用し、状況を見てトイレ誘導する事でリハビリパンツからパットのみに改善した方もいる。夜間帯は本人本位の支援で安眠を優先している。快便につなげ牛乳寒天等工夫し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の影響を理解し便秘が2日続いたら牛乳寒天を食べていただく工夫をしている。それでも難しい場合、薬の力もかり、便秘解消を支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒否する人のために、入浴時間や、入浴剤の使用などで工夫し、楽しんでもらうよう支援している。	毎日の入浴を可能としているが一日おきに入浴する方が多い。状態によってはシャワー浴対応もある。声掛けの工夫や本人の混乱を避けるため無理することなく時間、日を変える等気分転換となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜勤時の状況を踏まえ、その時の傾眠状態にあわせ、横になっていただいたりしている。夜の安眠のためにも日光欲は大事にしてお茶飲みしながら、一緒に楽しむよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬づくり、服薬チェックを違う職員が行い、薬についての理解を得られるようにしている。また、月に一度薬剤師が定期薬を持参する時に、不必要な薬の相談や薬の効き具合など話し合いドクターにつなげてもらうなど支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりの出来ること楽しめることをやってもらいながら、情報を集め、張り合いの持てる日々を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	簡単には行けない遠くの温泉について家族につなげ戸外への外出を楽しめるよう支援している。	人手の問題、入居者の状況により難しい所がある。今年は意を決して仙台七夕祭りを午前、午後に分けて出かけて好評だった。外出を事前に話すことで入居者が不穏になる等難しい。季節に応じた外出等一年を通して支援していただきたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	直接お金を持つことがなくても、外出した時に、買い物をして、その時、預かっているお金を渡して、買い物が出来るよう支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい時には自らできるように子機を使用したり、職員がかけて話してもらうなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏なので、すだれをかけてみたり、雑誌や新聞を置いて自由にとれるようにしてみたり、その時々で工夫をこらしている。また、西日が強いので、日よけを置いたり、扇風機を置いたりして夏の季節感を出している。	隣り合わせの共有空間は事務所、テラスから自由に行き来できる。それぞれにテーブルとイス、ソファが置かれ寛ろいである。天窗から自然な明かりが差し込み、夏場は均等に冷風が当たるよう扇風機を置く等配慮し季節感のある共有空間作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置、角々に椅子やベンチをおき、居場所づくりの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に家族に聞いて、馴染みのある物を持参していただくようにしている。お茶碗・箸などは普段使っている馴染みの品物を持参していただき、違和感なく食べてもらうよう工夫している。	クローゼット、ベッドはホームの設置である。ベッドは入居者の状態に合わせている。衣装ケース、仏壇、テレビ等を持ち込み思い思いの居室作りとなっている。季節の変わり目には家族が来て衣類の入れ替えをしてくれる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示・部屋のドアには名前をかけてわかる工夫をしている。		